



熊本市 感染症発生動向調査 速報



●劇症型溶血性レンサ球菌感染症が今年はすでに8件報告されています。

劇症型と名前があるように、突発的に発症し、急速に多臓器不全に進行する感染症です。致死率が約30%ときわめて高く「人食いバクテリア」とメディアで取り上げられる事もあります。

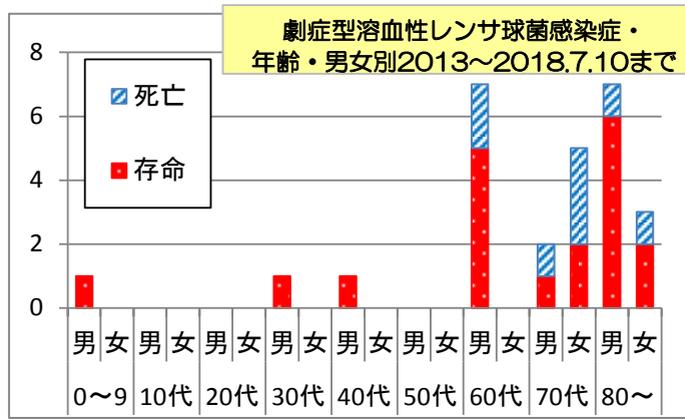
原因となる溶血性レンサ球菌は、通常、人の口腔内などに常在しており、感染しても多くは無症状や、小児（まれに大人にも）に咽頭炎（A群溶血性レンサ球菌咽頭炎）をおこす程度にとどまります。しかしまれに、通常は菌の存在しない筋肉、脂肪組織や血液、脳脊髄液、胸水、腹水などへ菌が侵入し、急激に症状が進行することがあります。これを劇症型溶血性レンサ球菌感染症といいます。劇症型溶血性レンサ球菌感染症は子どもから大人まで広範囲の年齢層に発症しますが、特に30歳以上の大人に多いのが特徴です。

◆どんな病気？

免疫不全などの重篤な基礎疾患をほとんど持っていないにもかかわらず、突然発病する例があります。初期症状としては手足の痛み（四肢の疼痛）、腫れ、発熱、血圧低下などで、発病から病状の進行が非常に急激かつ劇的で、発病後数十時間以内には軟部組織壊死、急性腎不全、成人型呼吸窮迫症候群（ARDS）、播種性血管内凝固症候群（DIC）、多臓器不全（MOF）を引き起こし、ショック状態から死に至ることも多いです。疼痛前に、発熱、悪寒、筋肉痛、下痢などのインフルエンザ様の症状が約20%の患者にみられます。

◆かかったらどうすればいいの？

入院による全身の治療が必要になります。治療の中心はペニシリン系抗菌薬が使用されます。加えて、血圧の低下に対する大量の点滴や感染によって死滅した組織の切除などが必要となります。劇症型溶血性レンサ球菌感染症に対する特別な予防法はありません。



| | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 (7月11日現在) |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|--------------------|
| 熊本市 | 2 | 2 | 5 | 4 | 7 | 8 |
| 熊本県 | 3 | 2 | 8 | 7 | 7 | 8 |
| 全国 | 210 | 273 | 431 | 497 | 588 | 404 |

| 期 間 | | 平成30年 26週 | | 平成30年 27週 | |
|--|-------|-----------|------|-------------|------|
| | | 6/25～7/1 | | 7/2～7/8（最新） | |
| 疾患名 <small>（百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました）</small> | 疾患の増減 | 報告数 | 定点当り | 報告数 | 定点当り |
| インフルエンザ | ➡ | 11 | 0.44 | 2 | 0.08 |
| RSウイルス感染症 | ➡ | 1 | 0.06 | 3 | 0.19 |
| 咽頭結膜熱(プール熱) | ➡ | 8 | 0.50 | 10 | 0.63 |
| A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 ⚠ | ➡ | 40 | 2.50 | 26 | 1.63 |
| 感染性胃腸炎 ⚠ | ➡ | 96 | 6.00 | 92 | 5.75 |
| 水痘(みずぼうそう) | ➡ | 5 | 0.31 | 2 | 0.13 |
| 手足口病 警報レベル!! | ➡ | 78 | 4.88 | 89 | 5.56 |
| 伝染性紅斑(りんご病) | ➡ | 1 | 0.06 | 0 | 0.00 |
| 突発性発しん | ➡ | 9 | 0.56 | 18 | 1.13 |
| ヘルパンギーナ | ➡ | 8 | 0.50 | 12 | 0.75 |
| 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ) | ➡ | 1 | 0.06 | 0 | 0.00 |
| 急性出血性結膜炎 | ➡ | 1 | 0.20 | 0 | 0.00 |
| 流行性角結膜炎(はやり目) ⚠ | ➡ | 16 | 3.20 | 17 | 3.40 |
| 細菌性髄膜炎 | ➡ | 1 | 0.20 | 0 | 0.00 |
| 無菌性髄膜炎 | ➡ | 1 | 0.20 | 0 | 0.00 |
| マイコプラズマ肺炎 | ➡ | 0 | 0.00 | 2 | 0.40 |
| クラミジア肺炎(オウム病を除く) | ➡ | 0 | 0.00 | 0 | 0.00 |
| 感染性胃腸炎(ロタウイルス) | ➡ | 0 | 0.00 | 0 | 0.00 |